

## 「朝鮮総聯の改革と祖国の統一・志向会」の文書（4号～10号）

第4報

二〇一一年 四月八日

東日本大震災。あまりにも酷い出来事でした。

突然の災難でお亡くなりになつた方々に、心から哀悼の意を表します。被災された多くの方々に、心からのお見舞いとエールをおくります。そしてまた、被災したはらからに熱いエールをおくります。

天災は時と場、国と民族を選ばないものです。今こそ国籍や民族を問わず、同胞愛、隣人愛、いや崇高な人類愛が發揮されるときです。それであつてこそ、この大災害からの再生・復興を成し遂げることが出来るというものです。

いま、隣国日本への支援の手が、在日同胞はもとより祖国南北から差しのべられている事実は、私たちの安堵と民族的自負心を呼び起こしてくれます。

いち早い韓国からのレスキュー隊（100名）の派遣。そして他国の救援隊等が原発の放射性物質の漏出に関連し、引き揚げる中にあつても、いちばん最後までの活動に多くの日本国民が感動し、感謝を惜しみませんでした。そればかりか、わざか三週間たらずで集まつた国民的な義援金は、50億円（日本円）を超えたといいます。これは、わが民族史上はじめて見る高額な義捐金であり、誠心・真心からの隣人愛だと高く評価されています。

あの過酷な日帝時代を生き抜いた一世同胞、解放後の異国暮

らしを体一つで乗りこえてきた在日同胞が、またもやどえらい試練に直面しました。この惨事を、「無念」とか「残念」などの言葉で済ますことはできません。まずは、こぞつて救援・支援運動を繰り広げることから始めなくてはなりません。しかしに、総聯と民団が共同して救援活動を開いていない悲しい事実を前にし、多くの同胞は砂を噛むような思いであります。

何人も如何なる団体も、この度の同胞救援事業を政治的に悪用してはなりません。人道と人権主義の原則に忠実でなければなりません。もしこれに背くような団体があるとすれば、それは在日同胞のための眞の団体ではありません。

▲中央会館の最高裁判決結果の責任は、許宗萬責任副議長にある

私たち志向会は、三月発信の第3報にて、「中央会館事件の最高裁判決がどちらに転ぼうとも許宗萬責任副議長の意に沿うようなものにはならないだろう。副議長は責任をとつて退陣せよ！」と指摘しました。

月日はせまり、最高裁判決は五月に出ることになっています。

許宗萬の胸中なるや如何なものでしょう。

その後の顛末をかいづまんでお知らせします、大震災から一週間後の二十四日、裁判所は、いわゆる両者打ち合わせの形で協議の場を持ちました。

結果は明白なものでした。まさに旗があげられたのでした。

平べったく語るならば、「被告（総聯）の言い分は通りません」と言うものです。総聯側の弁護団は黙つたまま席を立つたといいます。

このようにメガトン級の激震が副議長室に走りました。許宗萬はそれなりの覚悟はしていたものの、暫くは全身の震えを抑えることが出来ませんでした。

これを聞いたある中央の最高級幹部は、「チョットマリジ。やつぱり負けたか？」と、独り言のように呟いたそうです、

この言葉にすべてが語られています。五月の判決は訊くにおよびません。

総聯が曰く、「この建物は管理委員会の所有物であつて総聯の物件ではありません」との姑息な主張は一蹴されたわけです。

総聯が所有する中央会館のRCC・整理回収機構に対する債務返済は、売却額三五億～四〇億と見られ、破綻した一六〇の朝信からRCCが引き継いだ一八一〇億円の不良債権の内。

六二八億円が総聯への融資額であつたとし、中央会館を差し押さえるとするものになります。

振り返つてみると、二〇〇七年五月三十一日、中央会館の土地、建物が売却されていたとの衝撃的なニュースが、日本の三

大新聞で一斉に報道されました。私たち同胞は、はじめて会館売買の事を知ることになりました。

そして、会館買賣問題がクローズアップされ、七月の新聞には「総聯のドン揺さぶる意見書」という記事がでました。元中央幹部連名の意見書を持った代表が、議長室に乗り込んで抗議した総聯運動史上はじめての出来事でした。

新学期が近づくが学生の数は増えず重い空氣だけが漂うところへ、最高裁の実質的敗北でイルクン（編注：活動家）たちの閉塞感は、普通ではありませんでした。「将軍さま」からの送金に感謝する気持ちにはなれませんでした。

三五億～四〇億円を揃えなくては中央会館が吹っ飛んでしまいます。

イルクンたちは、「責任副議長が、名のとおり責任をもつてお金を工面してくれるさ」「いま、同胞にお金を出してくさいと言えるかね。本当に殴り飛ばされるぞ」「これで、わが総聯もジー・エンドさ」という声に代表されていました。

誠実なイルクンたちや同胞の憤激は想像に余ります。「ウリ財産が差し押さえられるとは何事か!」「イルクンたちは、少ない給料を差し引かれながら、当時二三〇億円の予算で会館建設に取り組んだ。実際は五〇億円ほどで会館を建てた。残りの一七〇億円は誰の懐に転がり込んだか分らないさ」「今度の地震は、千年に一度の激震だが、中央会館の消滅は在日同胞のもう一つの「大激震」なんだよ。ナプシノム（編注：悪いやつ）！」と吐き捨てるのでした。

今や、共和国からの「送金」を信じる人もいません。商工人たちや同胞が金を出してくれると思う人もいません。ところで三月初旬、共和国政府は「大使館の役割を果たしていいる総聯中央会館への日本政府の政治的圧力は許せない」という内容の声明を出しました。しかしこれは、ピント外れの笑い話にしかなりません。

そう言えば、「許宗萬が、今まで金父子に貢いだ莫大な金の一部を、将軍さまのスイス銀行から振り込ませば一件落着となるのは?」と冗談半分に言う人もいます。万が一、こんな決着があったとしても許宗萬の犯罪と罪が消えるものではありません。同胞は決して忘れません。そして許しません。

## 第5報

### 民族教育の衰退をもたらした、全ての責任は許宗萬現執行部にある

朝鮮総聯の改革と民族統一・志向会 関東本部

二〇二一年五月二十四日

東日本大震災からすでに二カ月が過ぎました。

振りかえると、大震災の惨状と出口の見えない原発事故に惑わされながらも、子供たちは夢多き新学期のスタートを切りました。

総聯国際統一局が出している、四月七日号のコリアン・ファイルを見ると、「東北地方に住む在日同胞の総数は九、五一三名で、今回の震災で一〇名の死亡が確認され、二五〇余名が行方不明（四月五日現在）とありました。行方不明の人々はほとんど帰らぬ人だと考へると、ただただ胸が痛むばかりです。同胞の心情とは関係なく去る三月二十八日、中央では「将軍さまからの慰問金に感謝する在日本朝鮮人中央大会」が持たれました。或る人などは、「それでも将軍さまからの慰問金だから素直に感謝すべきだ」と言います。結果としてそうでしょか?」

「将軍サマ」が、許宗萬をけしかけ私たちから収奪した莫大な金を考えると、「慰問金」は、そのおこぼれの涙金でしかおりません。

そればかりか、感謝している同胞がいないということを許宗萬執行部は知り尽くしているのです。それでも大会は開かれ、「忠誠の報告」はピョンヤンに打電されました。

「風前の灯だつたどこの国の首相が大震災で延命したように、悪運の強い許宗萬もこの震災で生き延びたと言うものさ。それ震災救援だと同胞大衆を煽り、中央会館問題への関心をそらせるばかりか、学生数減少の責任も語らずじまい、二〇一二年の四月まで、「九〇日運動」等のカンパニアだけを連続させる魂胆なのさ」と、ある中央幹部が言つたといいます。許宗萬は、今もって中央会館の売買事件はもちろんのこと、この度の問題などについても何一つ語らず、引き続き同胞を欺き続けています。

ことでもあるうに、許宗萬は大震災を自分の政治的野望と権力延命の道具に悪用し、すりかえる政治ペテン師であります。震災から一ヶ月にもならないというのに、総聯中央内部では「日赤への一〇万ドルはさて置き、果たして同胞への慰問金が送金されたかどうかも疑わしい。よしんば送金があったとしても、被災同胞の手に届かず大半はどこかへ消えてしまうのではないか」との声が囁かれていました。私たちは監視の眼を緩めてはなりません。

「金正日将軍さま」に盲従し、私たち同胞の共同資産を売り払い、組織を壊滅状態におとしいれた独善者・許宗萬現執行部を退陣させ、今こそ総聯の真正な進路を提示・引導する共同指導部を立ち上げることが切実に要求されるところです。

私たちは再度、許宗萬が中央会館をはじめとする総聯の財産・資産横領の真相を明らかにし、その全額返済と即刻の退陣を強く要求する!

四月に入ると「金日成生誕九九周年祝賀大会」なるものがたれました。そこでも彼は、「この度の大震災に日本当局への慰問金ばかりか、被害地の海外同胞に愛の慰問金を贈られた領導者は、金正日将軍さままだ一人であられます」と、もちろん、続けて「日本当局が反共和国制裁動を敢行している中につても、限りなく広い度量で、日本赤十字社へ一〇万米ドルの慰問金贈られた（ママ）敬愛する将軍さまの崇高な国際的人道主義を、日本の政界の人士や多くの日本人民の中に広く知らせなくてはなりません」と演説しました。

とんでもありません。人を殺し金品を奪った強盗殺人犯が、突然「俺は神様だ」と叫ぶようなものです。一体どれだけの在日同胞が将軍サマを崇め尊敬しているのでしょうか。また、自国民を拉致された日本人が、正日サマを「崇高な国際的人道主義者」だと思つてくれるでしょうか?

五月になると総聯幹部と商工人、同胞たちの関心は、中央会館問題の最高裁判決に集中しました。当の判決はどうも六月にずれ込むとのことです。

許宗萬はすでに中央会館を開け渡し、白山の出版会館へ移動する準備を完了したといいます。各局の部屋の割り当てまでもが済まされたそうです。

その上、整理回収機構（RCC）は競売価格を六〇億円に引き上げたといいます。すでに、いろんな不動産業者が蠢いていりばかりか、統一教会までもが食い込んでいます。中央会館は在日同胞が、血と涙で築き上げた私たち同胞の共同財産であります。決して、許宗萬の個人財産ではありません。

私たちには、許宗萬のこのような犯罪・背信行為を絶対に許しません。

新年度、学生数減少の責任は、いったい誰がとるべきか！

総聯は昨年度を「民族教育を強化する年」と位置づけ全力を傾けました。

また、中央委員会第三二期六次会議の決定では「…一人でも多くの同胞子弟をウリ学校に受け入れ、転出生をくい止め、日校在学生を編入させることによって、学生数減少現象に終止符を打つ端緒を切り開かなくてはならない」としています。

しかるにどうでしょうか。今年も学生数の下降現象にストップをかけることは出来ませんでした。

東京中高級学校新校舎建設委員会が総聯中央に出した要望書は、もう一三年も前のことです、建設委員会は、その序言のところで学生数が急激に減っている原因を直視しなければならぬいとし、「その速度は非常に速い。東京中高級学校の学区制管下の中級学校では、毎年五〇名に達する学生が日本学校に転出している」と指摘しています。

このように一〇年も前から学生数は減少し続け、近年には初級への新入生は毎年三〇〇名台の減少、中級から高級への進学生中二〇〇名台が日本学校に転出しています。

ある教育部門の幹部は、「この状態だと、あと二～三年もすると三・四千名台に減るでしょう。学校の統廃合もやむをえません。だのに將軍さまは学校の数を減らすなどおっしゃいます。どうすればいいのでしょうか」と、語っています。

三～四月の朝鮮新報を見ると、西東京第一初級学校の学生数

いや、在日同胞の民族教育を金日成親子にかつぱらわれたと  
言うべきです。

このようにして、同胞子弟の民族教育は金日成親子に対する崇拜教育、すなわち北朝鮮の国民教育になりさがり、表の顔とは別に、その裏では金親子への忠誠心教育を推し進めてきました。

上で述べた、国際局のファイルには次のようにくだりがあります。「日本政府は朝鮮学校への「高校無償化」の適用を、とうとう二〇一〇年度は見送ってしまった」と。

また、福岡朝鮮学園が県と市（北九州市）に二〇〇九年度分の補助金を二重取りし、日本市民から補助金の取り消しと返還を求める住民監査請求を起こされたという恥ずかしい出来事を、私たちはどう理解したらいいのでしょうか！

民族教育への日本政府の差別は許すべきではありません。しかし、このように裏の教育を続けてきた許宗萬執行部に、すべての責任があります。

私たちは在日同胞子弟のための眞の民族教育を実施し、その合法性を守りたいのです。ほんとうの民族教育を再生し、コマ（編注：子ども）たちの明るい声が校庭に響くとき、在日同胞は言うに及ばず、多くの日本国民が心底から私たちの教育を理解し、惜しみない支援を送ってくれることでしよう。

私たちの未来たちが、民族の言葉と文字、文化を思いつきり学び明るい希望が持てるようにするため、金親子にひつたぐられ、政治の道具に利用された民族教育を、みんなの手に取り戻そうではありませんか！

が数名増えたことと、埼玉初中級が五～六名増やしたこと、が大きく報じられただけです。他校での指標達成の報道は一切ありません。

今年は減少に歯止めをかけるということで、指標は在籍者と同数としました。たとえ一名でも増やした学校は大々的に宣伝されるはずですが、それがないのを見ると、その他の学校は軒並み減らしたということです。

このように今学年度、ウリ学校の学生数は六〇〇〇名台に落ち込んでしまいました。在日同胞の血と汗の結晶である学校を売り払い、学生数を減少させ、民族教育を壊滅状態に陥れたすべての責任は許宗萬にあります。

私たちの手にほんとうの民族教育を取り戻そう！

もし、総聯中央が心ある先輩たちの提言を真摯に受け止め、改善・改革に取り組んでいたならば、今日のような事態にはならなかつたことでしょう。

今まで出されてきた、民族教育の改善を要求する声は、総じて、ウリ学校から金日成・金正日崇拜のための教育を廃止し、眞の民族教育を取り戻したいとするものでした。しかし、総聯中央はこれらを要望に対し聞く耳を持ちませんでした。多くの先斐諸氏は、Rなんでもないさ、ウリ教育が変質したんだよ。学校の教室から乙支文德將軍や李舜臣將軍の肖像画がなくなり（一九六〇年代後半）、組織内で金日成の唯一思想体系の確立が狂ったように呼ばれたところから、民族教育は事实上消滅したのだ」と言うのです。

## 第6報

### 許宗萬は、「在日同胞の韓国参政権」行使 (一〇一年)への不当介入をやめよ！

二〇一年六月一五日  
朝鮮総聯の改革と祖国統一・志向会関東地方本部

五月末、金正日は病躯を引きずり中国詣でに行つてきた。三代目世襲への支持と食糧などの経済支援を乞い願い…。これまでに朝鮮王朝の事大主義の再来だ。

このような金正日を崇める韓国の親北・従北勢力は、再び、来年の選挙で政権を握ろうとして躍起になつてている。

先日、友人に誘われ、ある飲み会に出かけた。参加者の顔ぶれは、現職の総遠幹部や元幹部、それに商工人など二〇数名。そのほとんどが旧知の人だった。一杯がすすむほどに話はエキサイト。そして、在日韓国籍同胞が、来年の南の国政選挙に参与する問題に話題が集中した。

その時の「討論」を集約すると、

(一)「民団の同胞ですら投票にはほとんど出かけないだろう。投票権を持つ人は約五〇万名だと言われているけど、どれだけの人が投票するだろうか？ 韓国の右からも左からも、在日の働き掛けは激しくなるだろう。そして在日社会に新しい対立が持ち込まれるだけだ」

(二)「ところで、これは民団が進めることで、総聯は関与できないことではないのか。私たちが総聯に居たときよく聞かされたように、選挙は韓国の内政問題だから、北や総聯がどう

かく言える開題ではないし干渉すべきではない」

(三) 「いや、それは違う。政治とは食うか食われるかだ。むしろ韓国を変える絶好のチャンスが与えられたのだから総聯もじつとしている訳がないさ。

総選挙はさておき、十二月の大統領選挙は、過去の例が示すように二〇万～三〇万票の決戦になること必至だ。在日がどちらに大きく傾き、左が二〇万ほど取るとすれば局面は大きく変わる。キーポイントはわれわれが握っていると言つても過言ではない」と、言うものであつた。その上、驚くような話を現職幹部が語つた。それは後で述べるとしよう。

## 二

二〇一二年はすぐそこまで来ている。金日成誕生一〇〇年、主体一〇〇年であり、金正日がいう「強盛大國」元年を迎える年だ。

アイロニーにも韓国の総選挙と大統領選挙の年でもある。

来年の選挙は、自由・民主主義勢力（右翼勢力）と、親北・従北勢力（左翼勢力）との一大決戦になるわけだ。すでに、選挙においてどの陣営が勝利をおさめるであろうか、保守勢力は団合できるのか、はたまた野党・従北勢力の統合はありうるのかと、かまびすしい限りだ。

韓国は二〇一二年から「在外国民参政権」を施行する。ところで来年の選挙で投票権を行使できる在日同胞は、約五〇万人だとされる。

今のところ選挙に対する同胞の関心は決して高いとはいえない。有権者は、まず、パスポートを持つて一九才以上の永

「心配ありません。イルクンや商工人の中には結構韓国籍の人がいます。その家族や縁故者へも積極的に働きかけます、また、民団・未組織同胞にも食い込んでみせます。もちろんどこへ投票するかは決まっています。大統領候補は右と左に別れるが、野党陣営―民主労働党や民主党は、最後に候補を一人に絞ります。右派は分裂して二人になるでしょう。すると、過去の例からして数一〇万票前後の争いになり、在日の票が大きく影響すること間違いありません。そうすると、わが総聯の真価が発揮されます」

それどころか、こんな生々しい話が囁かれているという。すでに韓国籍を持つ核心的な幹部たちの中では、「対象者選抜事業」が終わり、具体的な名簿作成が進んでいて、イルクン一人が獲得すべき目標と名簿を上部に提出しているというのだ。

そして、総聯の幹部や熱誠者、商工人の中には、想像以上に

多くの「隠れ韓国籍所有者」がいる。公式の発表はないが、すでに朝鮮籍同胞は四万人を切つたという。ウリ学校の学父母ですら七〇%以上が韓国籍だから、「隠れ韓国籍」は想像以上の数ではなかろうか。

このような現状を勘案すると、北の指令のもと総聯が「選挙旋風」をまき起こすことは十分に可能であろう。ウリ学校の学父母で、韓統連の動向を見逃してはならない。韓統連とはいかかる団体のことは語る必要もない。彼らは今年度の運動方針に基づき、南北の「民主進歩勢力」と緊密に連携し、金正日の南への選挙介入に

住権者である。また、韓国領事館へ選挙人登録申請に出向き、その後決定送付を受けて投票に出向くというもので利便性に欠ける。高い投票率は望めそうにもなく三〇万（六〇%）も投票すれば上出来だといわれている。

たとえば、先の模擬投票に参加した人は一五〇〇人に過ぎなかつたというよう。同胞の多くは投票権があることすらも知らないあります。選挙に対する大方の予想は、選挙の構図が右と左の熾烈なたかいになることは間違いない、五〇万票といわれる在日同胞の票は狙い撃ちされる。この日本で激しい選挙戦が展開されるといつても過言でない。

## 三

金正日は韓国の国政選挙に焦点を合わせ、南への軍事的な干渉といわゆる「対話攻勢」を併用しながら、選挙への露骨な干渉、搔きぶりを仕掛けるであろう。そして総聯が、その忠実な実行部隊であることを忘れてはならない。

南朝鮮への工作機関・統一戦線部の司令に操られている許萬執行部が、黙つているわけがない。今は静かに「裏部屋」で陰謀・策略をめぐらしているようだが、やがてその牙をむきだすこと間違いない。

まず、親族、同郷、同窓関係や同業関係などの人脈を利用して、民団同胞や未組織同胞を取り込んでいくだろう。次に、いわゆる「隠れ韓国籍」の幹部・商工人と、その縁故者に対する徹底した工作。また、非合法な手段、投票場での妨害など、想像も出来ない姑息な手段を駆使するであろう。

## 四

前段の飲み会の話に戻るが、都本部の幹部は得意げに語った。

昨年あたりから、民主労働党をはじめとする左翼政党の国会議員や従北市民団体、一部の左翼マスコミ等が日本にやって来て、巧妙な事前運動を展開している。

南の動向を見ると、民主労働党などの従北左翼勢力は、選挙モードに突入して久しい。ところがハンナラ党は、先の四・二七補選での惨敗後、左傾化とポピュリズム、それに党内混亂が続いている。右翼陣営の候補者単一化など考えられないのが実情である。これでは総選挙はもちろん大統領選挙での勝利は望めそうにない。

金正日が狙い定める朝鮮革命・金日成主義化の当面の戦略は、二〇一二年の大統領選挙で、金大中・盧武鉉につぐ三番目の従北左翼政権を実現させることにある。

もし、このまま行くと大変な事態が到来する。韓国がまた、あの金大中—盧武鉉政権の時代へと逆戻りすることになる。そして北の民主化と祖国統一事業は再び遅延する。そんなことがあつてはならない。そして、南の人々はそんな選択はしないであらうと信じたい。

総聯幹部の隠れ韓国籍者はさておき、韓国籍を持つ多くの総聯会員は決して、北と許宗萬の笛や太鼓には踊らされないであろう。どこに金正日と金正恩を崇める同胞がいるだろうか。幻想は所詮幻想にすぎない。

今年の初め民団新聞は、朝鮮籍から韓国籍に切り替えて韓国のパスポートを所持しているながら、総聯活動に従事する「隠れた総聯関係者」が相当数いることを認め、この「総聯関係者」と心身ともに総聯から離れた同胞を区別して対処しなければならないと指摘している。

今、重要なことは、同胞への啓蒙活動を力強く展開し、金正日政権の本質と総聯の欺瞞性を暴露し、彼らの無謀な策略と偽善に乗らされることではなかろうか。

投票権をもつ総聯同胞に訴えたい。金正日と許宗萬の欺瞞と政治的介入を断固打ち碎き、賢明な判断と良心からの投票権の行使を！

ト。

許宗萬執行部よ！南の国政選挙、民団同胞の選挙権行使に介入・妨害すべきでない！

独裁者・金正日の下手人となり、犯してきた罪だけでも恥らしい限りだというのに、その上にまた罪を重ねると言うのか！

不埒な者どもよ！

二〇二一年七月十三日  
第7報  
「強盛大国」の大門を開いても、中は空っぽだ。  
「中央会館競売問題」のその後  
朝鮮総聯の改革と祖国統一・志向会関東地方本部

同胞のみなさん！

昨日、ペテン師という言葉をよく耳にします。ペテン師と詐欺師が喧嘩すればどうなることでしょう。いま、「中央会館問題」を抱かえる総聯中央が、このたぐいだそうです。

「コンカリチバン（崩壊家族）」そのものだといいます。それで毎日、なあなあで付き合つ最高幹部たちやその取り巻き連中は、夜になると怪しげな高級バーや料亭にたむろし、「分け前合戦」と足の引つ張り合いに明け暮れているのだといいます。今や、会館の競売価格は七〇〇八〇億円に上がつたそうです。それでも落としたい不動産業者はうようよしているとのことです。

総聯系ではないある同胞不動産会社のオーナーは、「同族としてのよしみから、日本人の手に入るよりはと思いつつ慎重に話しあつたが、総聯は最後のところでハシゴを外して涼しい顔。これはもうゴロツキのたぐいだ。許宗萬とその取り巻きまでが互いに潰し合っている。総聯はもうお終いだよ。本当に嘆かわしい話しだ」と話したそうです。

もっと驚くべき話は、ある不動産業者が「こちらに落としてくれるなら、二〇億のバックを出そう」と持ちかけました。す

ると許宗萬は、この場に及んでも自分の懐に入れる金のことしか考えなかつたそうです。

五月二十八日の民放テレビによると、池内とかいう日本人僧侶がピヨンヤンで最高人民会議常任副委員長・楊亨燮と会見したとのことです。その場で楊は、「総聯中央会館問題への日本政府の善処をお願いする」と話したそうです。これは、許宗萬と北の焦り以外のなにものでもないでしょう。

ことの本質は、とつぶくに許宗萬が中央会館を喰いものにしてしまつたということです。もはや中央会館は、総聯同胞の会館ではないという事実です。同胞の血と汗の結晶である共有財産を、許宗萬が勝手に売り払い処分することは断じて許せません。水は上から下へながれ、潮日は必ず変わるものです。いま多くのイルクンたちや同胞は金正日を見捨て、組織から離脱しています。果敢な抵抗を展開しています。

それは、この四月のウリ学校学生数の急激な減少に如実に表われています。同胞の期待を裏切つた「教育」が、どうして支持されましよう。

民族教育を壊滅状態に陥れた張本人は、どこに誰ですか？それが許宗萬ではありませんか？

■「強盛大國」の大門は開くだろうか？

同胞のみなさん！総聯イルクンのみなさん！

七月十日の中央熱誠者大会では、「金日成主席の誕生100周年を目前にし、強盛大國開門の歓喜の瞬間が時々刻々と迫つている歴史的な時期」にもつこの度の大会は総聯の最盛期を切り開くための画期的な大会だとぶちあげています。

北では、「もう少しの辛抱だ。そこに希望と勝利の大門が開かれる」と、これまた勇ましい。しかし、「強盛大國開門」の夢物語は、果たして実現するのでしょうか？

なんと、北のある最高幹部は、「大門は開いても、その中は何も無い空っぽの大門さ」と自嘲したといいます。國星ですが、これが、「將軍さまの賢明な指導」の結果であります。

さて、北がいう大門の開門とは何なのでしょうか。それは、思想強国、軍事強国、経済強国になると言つことを意味します。これらの「成果」を理屈付けし、人民大衆に知らしめ全世界に吹聴しようというものです。正直、思想、軍事部門の成果を裝うことは、そう難しくはないようです。

すでに北は、主体思想とともに金正日の先軍思想が北の指導思想だとうそぶき（二〇〇九年の改正憲法）、「偉大な將軍さまの先軍領導のお陰で、わが祖国は一心団結した政治・思想強國になつた」と叫んでいます。

次に、二度にわたる核実験で三〇〇五〇kgのプラトニウムを保有（アメリカ議会調査局）、高濃縮ウラニュームの開発に拍車がかかつた。よつて、「我が国は、核爆弾と大量破壊武器で武装した無敵の軍事大国になつた」と言つてはばかりません。

最後に、肝心の経済ですが、「今や我が国は誇り高い経済大国になり、世界の先端を進む科学技術強国になつた」と、ボリュームをあげています。しかし、このスピーカーからは一粒のコメも握りのトウモロコシもこぼれてはきません。

軍糧米が枯渇し、軍人の脱走が相次いでいます。人々は飢え、山菜で飢えをしのがなくてはならないというのに、一体どこの

誰が、「輝かしい強盛大国」の到来を信じるでしょうか。

なんと、新年の共同社説は「人民生活向上の烽火を高く掲げ強盛大國建設の決定的な転換を…」と意気込んでいます。しかし、これは虚しい掛け声にすぎません。食糧のおねだりは、今やアフリカの最貧国にまで手を指しだす有様です。

子供たちをはじめ数百万の人民が飢え、数十万人を政治犯収容所に収監したまま自分で世界の山海珍味で贅沢三昧、奥の手よろしく乞食外交に明け暮れる金正日人々は、「ケセツキ（犬ころ）」とか「ゴロツキ者」と呼んでいます。

最近、北へ行つたある中央幹部は、「コンピュータでのハイテク工場を見学した。ビナロン工場の再開で肥料問題も解決出来、今年の農業は豊作。食べる問題もクリアできる。こうして祖国は強盛大國の大門を開くこと間違いない。中国との経済協力、羅先經濟特区への外国資本の投資も成功裏に進んできた」と語つたとのことです。このような話を、どれだけのイルクンや同胞が額面通りに信じるでしょうか。大方の人々はすべてをみすかしているのです。

どうであろうが、このような事前宣伝と誇張した売り込みは、彼ら特有の欺瞞的手法であり、見え透いたトリックにすぎません。

### ■「朝中經濟特区」に、金正日の活路は?

去る六月八日、鴨緑江の中州、黃金坪で行われた朝中經濟特区の着工式は、また何を意味するのでしょうか。かつて、これに似た「改革開放の真似ごと」は、ことごとく日の目を見ることが出来なかつたように、これまたうまくいく訳がありません。

うなものだ。市場經濟原理の通じない奴らに何ができるよう。北が、土地や地下資源を売ることはできる。でも經濟特区などの運営は出来っこない」と、口をそろえます。これらの声がすべてを言い表しています。

どだい出来っこない相談なのです。「改革」は經濟の仕組みを資本主義化するということです。社會主義經濟・中央計画經濟体面をとっぱらわなくては出来ないです。

金正日は、自らの足元を根底から搖るがす中國式の「改革開放」を導入するわけがありません。金正日の辭書に「改革開放」はありません、

しかし、ペテン師・金正日は、南の二〇一二年選挙への介入とかく乱はもとより、「強盛大国」失敗の責任を免れるための唯一の手段として、恐喝な挑発を執拗に展開すること間違ないでしよう。

「北朝鮮は、死にもなおりしない重病患者のようなものだ。今すぐ滅びるのでなく、だと言つて立直ることも出来ない。統制が厳しく、情報遮断壁があつく、外部からの食糧支援と闘争を黙認しての延命術が巧みなため、今すぐの破滅も期待できない。だと言つて、中國式の改革開放は政権の存立をおびやかすものだから、経済改善も期待できない」と、あるアメリカの学者が言つたそうです。ここまで見透かれては話になりません。

総聯イルクンのみなさん！

総聯から「脱出」することは出来るが、長い間、金日成教の洗脳を受けたため、そして「人質」への報復の恐怖感からか諦めています。

朝中が合意に達したこの特区黃金坪には、商業センター等の四大産業団地と被服工場等の賃加工団地を造成するというものでした。これは、土地の賃貸料だけでなく外国からの投資誘致。

二〇〇二年の新義州特別行政区計画のあつけない頓挫は別にしても、一九九一年の羅津・先鋒の經濟特区の設置、二〇〇四年からの開城工業団地など、どれ一つ順調に進行したものはありません。

北がいう經濟特区の絶対的な条件は、それが、自らの政治的安定と延命をおびやかすものであつてはならないと言うことです。特区は限られた地域のものであり、徹底した統制下で安価な労働力を搾取し、外貨を稼ぐ魅力あるものであることは間違いません。

しかし、北の經濟システムを根本から変えない以上、經濟特区は必ず頭打ちします。政治的に不安定で經濟論理が機能しない所への投資など誰がするでしょうか。北がいくら笛を吹こうが。リスクをおかしての外貨資本の投資など到底望めません。中国商務省は、「インフラ整備が遅れ、電力と輸送手段の確保は困難。北へのむやみな投資は控えよ」との、おふれを出している始末です。

身近な話ですが、一九八四年にはじまつた鳴り物入りの「合營（合弁）事業」の惨憺たる結末は、私たちの記憶に新しいものがあります。合弁に乗せられた在日同胞商工人は、「あれは悪夢を見たよ

めが先立つのも領けない話ではありません。

だが、かつてのようない総聯の陰湿な策動はありません。そんなことが出来る状況でもあります。この事実を明確に認識する必要があるのではないか。金正日が操り、許宗萬が船頭の「総聯丸」は泥船です。もうごめんです。まず、私たちはいろんなグループを作り自由に意見を述べあう。そして、同志的なネットワークに参加、結集し、総聯の民主化を勝ち取ろうではありませんか！やがて、このたたかいは大河の流れになること間違ひありません。

## 第8報 「総聯中央委員会第二二期 第二次会議・決定書」伏せられた部分

許宗萬のもう一つの犯罪行為と、その末路…

▲伏せられた内容とは？

周知のように、去る七月九日、総聯中央委員会第二二期第

二次会議がありました、しかし、許宗萬の報告の中から消され

ていた部分があり、朝鮮新報も一切報道せず、その部分を伏せ

ていました。

なんのことはありません。その部分とは、「白頭の伝統を万代に輝かせ、大將同志を高く推し戴き、大將同志の領導のもと総聯事業を力強く繰り広げ、主体偉業を繼承完成させる確固たる意志と覚悟を表明する」というものでした。

まさに金正恩の三代目世襲を支持・公式化するものでした。そして、さつそくこの決定を支持賛同する、歯の浮くような討論が続きました。

ともあれ、昨年九月の労働党代表者会で、後継者として正式登場した後、今日まで、総聯中央は一片の支持声明も出さず黙り込んでいました。

私たち志向会は二月、金正恩の権力世襲反対を表明し、「総聯は、正式の支持声明を出すと、同胞から猛烈なケツチンをくらうので様子をうかがっているだけだ」との見解を出してきました。許宗萬等は、その時点では公表する自信がなかつたのでしょうか。そして、同胞の反応を見ながらの巧妙に出し引きする戦法に出ていたわけです。

金正恩への三代世襲は、世界中の嘲笑をかっています。ことあるごとに北を擁護し、その宣伝の片棒を担いできた一部日本の「文化人」や「北朝鮮版御用学者」からも、今度ばかりはソッポを向かれてきました。先日、日本の新聞が許宗萬の「後継体制支持」の愚行を取り上げ一蹴したのも、これまた至極当然なことでしょう。時代錯誤な三代世襲がすんなりと進行する筈がありません。人々を飢えさせ経済は破綻させ、正恩の手がけた「指導」なるものは失策の連続です。

このたびの、金正恩への世襲・権力移譲なるものは、人民大衆への暴虐と肅清の中から出てきた呪われた産物です、昨年四月の肅清に続き、この五月には柳敬・国家安全保衛部副部長が銃殺され、今まで血の風が吹き荒れています。許宗萬と現中央執行部に問いたい。在日同胞のどれだけの人が、ドラ息子の三

代目世襲を支持していますか？どれだけのイルクンが金正恩を崇めますか？三代目世襲など三尺童子も笑う茶番であり、まったくナンセンスな話です。

許宗萬は、先ず、総聯の幹部内での「思想教養」からはじめ、徐々に同胞への浸透をはかるうとしています。しかし、許宗萬が「裸の王様」でありますから幹部たちや同胞との接触がないと言つても、金正恩の三代世襲が受け入れられていない状況を知らないわけがありません。

中央幹部はいざ知らず、それでも県本部や支部のイルクンたちは同胞との接觸が多く、同胞の動向をよく知っています。しかし、许宗萬は、先ず、総聯の幹部内での「思想教養」からはじめ、徐々に同胞への浸透をはかるうとしています。しかし、許宗萬が「裸の王様」でありますから幹部たちや同胞との接觸がないと言つても、金正恩の三代世襲が受け入れられていない状況を知らないわけがありません。

中央幹部はいざ知らず、それでも県本部や支部のイルクンたちは同胞との接觸が多く、同胞の動向をよく知っています。しかし、许宗萬は、先ず、総聯の幹部内での「思想教養」からはじめ、徐々に同胞への浸透をはかるうとしています。しかし、許宗萬が「裸の王様」でありますから幹部たちや同胞との接觸がないと言つても、金正恩の三代世襲が受け入れられていない状況を知らないわけがありません。

中央幹部はいざ知らず、それでも県本部や支部のイルクンたちは同胞との接觸が多く、同胞の動向をよく知っています。しかし、许宗萬は、先ず、総聯の幹部内での「思想教養」からはじめ、徐々に同胞への浸透をはかるうとしています。しかし、許宗萬が「裸の王様」でありますから幹部たちや同胞との接觸がないと言つても、金正恩の三代世襲が受け入れられていない状況を知らないわけがありません。

中央幹部はいざ知らず、それでも県本部や支部のイルクンたちは同胞との接觸が多く、同胞の動向をよく知っています。しかし、许宗萬は、先ず、総聯の幹部内での「思想教養」からはじめ、徐々に同胞への浸透をはかるうとしています。しかし、許宗萬が「裸の王様」でありますから幹部たちや同胞との接觸がないと言つても、金正恩の三代世襲が受け入れられていない状況を知らないわけがありません。

また多くの同胞が総聯から離脱して行くのは間違いない。三代目世襲。どこに正当性があるのかね」

まさにその通りです。許宗萬は自ら総聯を崩壊・瓦解への道へと迫いやっているのです。

### ▲光復節・八・一五に想う

私たちの会報が出る度に、許宗萬一派の嫌がらせや妨害は続きました、しかし、その都度、私たちは逆に励まされてきました。許宗萬に与えた衝撃の大きさは、第四～六報（中央会館問題、民族教育問題、在日同胞への韓国参政権付与問題）後のあわて方によく表れています。

彼らは志向会を突き止めようとして、先ず、「情報を漏らしていそうな幹部」、次に組織から追い出した「非組織策動分子」や活動家、そして、チャンソリ（小言）の多い商工人のリストをあげ、その周辺を探りました。しかし、「怪しい者たち」は、逆にドンドン増えるばかりでした。

それで今度は、今まで飼いならしてきた一部の日本人文化人、新聞記者たちを通して、「怪しい者」を探り出そうとしました。しかし、それも空振りでした。志向会の尻尾などつかまえようもなく、逆にネットワークは拡大するばかりです。なによりも嬉しいことには、私たちの会報が、次々とコピーされて流されていることでした。そればかりか、会報は内外から注目をあびせられています。

一九四五年八月十五日、祖国は解放されました。しかし、祖国はいまだ分断されたままです。

### ▲許宗萬に歴史の審判を！

問題の最高裁は、判決を出さないまま長い夏休みに入っています。そもそも、朝銀を破綻させ不良債権一五三〇億円を積みあげ、その約四〇〇六一七億円が総聯への融資でした。

整理回収機構は、東京地裁に会館の競売を申し立て、二〇〇九年には、会館の実質的な所有者は総聯だとして訴訟。中央はこれを不服として控訴。だが昨年の十二月、高裁で棄却されました。最高裁の一審判決では却下され、それが二審でひっくり返ることは、先ずないことだと言われています。

許宗萬の周辺では、なんもありました。日本の政治家「政商の輩」はもとより、暴力団のたぐいや元公安調査庁長官・緒方、そしてまた、文鮮明の「統一教会」がからんだり、悪徳金融屋や地上げ屋がうごめく仁義なきたかいが繰り広げられてきました。そして、おさまったサヤがこの有様です。

そこには、中央会館の眞の所有者である同胞の意志は何一つ反映されていません。残念ながら、それは当然なことかも知れません。

もう一五〇六年も前に、金正日は家来どもに次のように怒鳴りました。

「何をぬかす。総聯の銀行には莫大な預金があるじゃないか。それをみな持つてこさせよ」と。

これは驚く話ではありません。何故なら、金正日にすれば総聯の財産も同胞も、これすべて自分の私有財産であり道具だからです。許宗萬も「総聯は主席さまの遺産だ」と言つてはばかりません。すると金正日と正恩は、「親の遺産」を食いつぶすドラ息子でありバカ孫です。また、許宗萬はその忠実な手先です。許宗萬に対する「御仁体の為なら何をいといましよう」の方程式しかありません。ですから彼の「一挙二動」は、すべて同胞と民族を裏切る犯罪行為のオノンパレードとなるのです。

▲また、韓国籍に切り替える同胞が続出しています

去る七月、許宗萬は総聯中央委員会第三期一次会議で、三代世襲支持を公式に発表、続いて八月二十七日には、まずは教育イルクンの前で「金正日大将さま」の尊称を反復し、金正恩世襲の公式化をおおっています。多くの同胞は異口同音、「やっぱ許宗萬は金正日の忠実な子分だと言うことさ」と、三代世襲支持への反発を強めています。その後、四万人しかいないと言われてきた朝鮮籍同胞ですが、韓国籍に切り替える人々が続出しているといいます。この調子だと近い将来、朝鮮籍の同胞はなくなってしまうのではないかでしょうか。

総聯は、この深刻な事態から眼をそらしてはなりません。高校無償化の適用などの日本政府への要請運動よりも、先ずは、金正日独裁政権から決別し、民族教育の正常化と再生に力を注ぐべきではないでしょうか?長い夏休みも終わり、ウリ学校の校庭にも子供たちの笑顔が戻ってきました。子供たちの将来を考えるとき、いたたまれない気持で再度民族教育について、同胞のみなさまに訴えます。

いま総聯の民族教育は壊滅の危機にあります。今年度の学生数は、中央が正式発表できないほどに減少し、六〇〇〇名を切りました。

二〇〇九年には、会館の競売を申し立て、中央はこれを不服として控訴。だが昨年の十二月、高裁で棄却されました。最高裁の一審判決では却下され、それが二審でひっくり返ることは、先ずないことだと言われています。

許宗萬の周辺では、なんもありました。日本の政治家「政商の輩」はもとより、暴力団のたぐいや元公安調査庁長官・緒方、そしてまた、文鮮明の「統一教会」がからんだり、悪徳金融屋や地上げ屋がうごめく仁義なきたかいが繰り広げられてきました。そして、おさまったサヤがこの有様です。

そこには、中央会館の眞の所有者である同胞の意志は何一つ反映されていません。残念ながら、それは当然なことかも知れません。

もう一五〇六年も前に、金正日は家来どもに次のように怒鳴りました。

「何をぬかす。総聯の銀行には莫大な預金があるじゃないか。それをみな持つてこさせよ」と。

これは驚く話ではありません。何故なら、金正日には総聯の財産も同胞も、これすべて自分の私有財産であり道具だからです。許宗萬も「総聯は主席さまの遺産だ」と言つてはばかりません。すると金正日と正恩は、「親の遺産」を食いつぶすドラ息子でありバカ孫です。また、許宗萬はその忠実な手先です。許宗萬に対する「御仁体の為なら何をいといましよう」の方程式しかありません。ですから彼の「一挙二動」は、すべて同胞と民族を裏切る犯罪行為のオノンパレードとなるのです。

## 第9報 三代世襲の支持よりも 民族教育の修復に取り組め!

総聯の改革と祖国統一・志向会 関東地方本部

「あのゴロツキ者が!同胞の手で“人民裁判”にかけて葬らないでは、俺は死に切れない」と憤激していた一世先輩の言葉が耳から離れません。

このたび、許宗萬は「金正恩後継体制擁立の旗手」になることを名乗りました。彼の一帯一代の「詐欺・ペテン劇」の開演であり、これは即、終演を意味するものです。

この道は、金正日、金正恩、そして許宗萬の末路でしかありません。

金正日があたふたとロシア訪問から帰りました。よほどしないようです。親父を見習い中ソ論争時代からの『二股外交』で甘い汁を吸う魂胆ですが、『いつも柳の下にドジョウはいいな』と言うたぐいです。

このたびの訪日は期待はずれでした。メドベージエフさんのお土産も挨拶程度でした。これでは「強盛大国」にはなれません。その上、リビヤのカダフィが飛んでもまい肝を潰した将軍さんは、住みなれた「地下室」にもぐりこむのが精いっぱいでした。志向会は第七報で、「強盛大国」の門など開かれないと断言しました。案の定、北は「強盛大国」から「強盛国家」と言い換えていました。これは、自らの失敗を認めたことを意味します。いや、世界の独裁者が一人ずつ消えていくというのに、「井

▲学生数減少に歯止めはかからなかつた

今学年度の学生数は大変な減りようでした。

七月の熱性者大会では、愛媛の四国初中級だけが、七名の学

許宗萬であり金正日ではありませんか!

生を増やしたと報告されています。また他のところで、埼玉初中級学校が数名の学生を増やしたと報告されています。しかし、これ以外の学校での増減については何の報告もありません。すなわち、他校は軒並み減らしたということです。東京中高級学校は、数年前から毎年高1への進学者が一クラスずつ減っています。毎年一〇〇名を切ることのなかった神戸朝高の新入生は八〇名に減り、学父母のショックは隠せなかつたといいます。

東大阪中級では、卒業生の三分の一（三四名）が日本の高校に転出しました。全国のほとんどの初級学校は、三〇～五〇名の小規模校になっています。

先の熱誠者大会で大阪の東成支部の委員長は、管下に一〇二人もの朝大卒業生がいて、その六〇%にあたる人を一堂に集める成果（？）をおさめたと討論しました。一つの区内に一〇二名もの朝大卒業生がいることは驚きですが、その卒業生の六〇名だけが、自分の子供をウリ学校に通わせていたら、所轄の初級学校の学生が三〇余名にどどまるわけがありません。いちばん信頼してやまない朝大卒業生が、このように北と金正日を見切り、総聯から離脱しているのです。

これは、卒業生が、総聯の「民族教育」にそっぽをむいていることであり、総聯組織の矛盾と自らの弱体化を、さらけ出している証ではないでしょうか。

▲またたく、心苦しいはなしです

この六月、東京朝高的学生たちが、北へ卒業旅行に行つきました。学生たちは、親や親戚から預かってきた現金や貴重品を先生に預けるのが常です。先生方は親族面談日が済むまでは、で在日同胞の民族教育を構築しなければ、この深刻な事態を克服することは出来ません。

許宗萬は（二〇〇〇年末の朝大の評議会）民族教育の目的について、「朝鮮大学生をチユチエ思想の世界觀と首領觀、民族觀をもつ確固とした中核に育てなくてはならない」との将軍さまの言葉を使い、朝大は在日朝鮮人運動の代、愛國の代を継ぐチユチエ型の青年中核を育てる源泉地にしなくてはならないと訓示しました。これは、金父子に忠実な「赤子の養成」を意味するものです。

東京中高級学校新校舎建設委員会（一九九八年）は、中央への要望書の中で、「民族教育は、学生たちを民族主義意識と国際性、日本社会で生きていける力を持ち、祖国の統一と民族の繁栄、同胞社会の発展のために献身する愛国愛族人材に育成すべきだ」と、提唱しています。

在日子弟の「学ぶ権利」を守り、国際的に認められる眞の民族教育を同胞の手に取り戻すためには、ウリ学校を金正日の手から切り離し、同胞自らの自主的な教育に変えなくてはなりません。先ずは、金一族の歴史に捏造された「現代朝鮮革命史」

生を増やしたと報告されています。また他のところで、埼玉初中級学校が数名の学生を増やしたと報告されています。しかし、これ以外の学校での増減については何の報告もありません。すなわち、他校は軒並み減らしたということです。東京中高級学校は、数年前から毎年高1への進学者が一クラスずつ減っています。毎年一〇〇名を切ることのなかつた神戸朝高の新入生は八〇名に減り、学父母のショックは隠せなかつたといいます。

東大阪中級では、卒業生の三分の一（三四名）が日本の高校に転出しました。全国のほとんどの初級学校は、三〇～五〇名の小規模校になっています。

先の熱誠者大会で大阪の東成支部の委員長は、管下に一〇二人もの朝大卒業生がいて、その六〇%にあたる人を一堂に集める成果（？）をおさめたと討論しました。一つの区内に一〇二名もの朝大卒業生がいることは驚きですが、その卒業生の六〇名だけが、自分の子供をウリ学校に通わせていたら、所轄の初級学校の学生が三〇余名にどどまるわけがありません。いちばん信頼してやまない朝大卒業生が、このように北と金正日を見切り、総聯から離脱しているのです。

これは、卒業生が、総聯の「民族教育」にそっぽをむいていることであり、総聯組織の矛盾と自らの弱体化を、さらけ出している証ではないでしょうか。

▲またたく、心苦しいはなしです

この六月、東京朝高的学生たちが、北へ卒業旅行に行つきました。学生たちは、親や親戚から預かってきた現金や貴重品を先生に預けるのが常です。先生方は親族面談日が済むまでは、

大金を肌身離さず持ち歩くのが大変だと悲鳴をあげているとのことです。でも、一部の学生が小遣いや貴重品をホテルにのこしたまま見学に出かけ、窃盗にあつたそうです。一般人は入ることも出来ないホテルですから、どの連中の仕業なのかは言うにおびません。

何人の学生が思つてもいい盗難にあい、次の日からの「史跡地もうで」では訊く耳を持たなかつたといいます。それは当然なことです。教わつてたことと現実が、あまりにもかけ離れていたのですから…。総聯中央は、朝大生や朝高生の卒業旅行を「忠誠心」注入の機会としてとらえ、金日成父子の「偉大性」を力説しています。すると、このギャップをどのように埋めているのでしょうか？

一九九七年以降の朝銀の破綻とともに、千葉、埼玉、愛知、大阪など三校の学校が、整理回収機構（RCC）に差し押さえられました。当時の差し押さえからは免れたのが三重の四日市初中級学校でした。しかしこのたび、県商工会の元理事長が、学校を担保に多額の融資を引き出していたという事実が発覚し、自治体からの補助が停止されたというのです。

千葉でも、学校が差し押さえられているとして、補助金支給を止められ東京、宮城、埼玉、大阪でも支給停止や見直しが続いている。中央教育会のある幹部は、吐き捨てるように話します。

「各自治体からの補助金が止まるとき、全国的に八億円近い金が入らなくなる。かりに「高校無償化」が適用されたとしても、それは学生の頭数での支給だから、朝高の学生数がどんどんと

から止ざなくてはなりません。歴史は真実を教えるものです。間違った歴史を子供たちに教えることはできません。あの、過酷な日帝時代にあっても、子供たちに民族史を説いた先輩たちがいたではありませんか。先生方がまず、勇気を出して金一族への忠誠心注入教育と、嘘で固められた歴史教育をボイコットするたたかいを展開して頂きたいのです。すれば、学父母と同胞たちは必ず呼応すること間違いありません。

■巨大収容所からの脱出、脱北は、人間としての尊厳を守り、金正日独裁政権に鉄槌を下す生死をかけた闘いである。五〇万の人びとが脱北する日、その日が、金独裁王国の崩壊がはじまる日になるであろう。

去る九月九日、ピョンヤンでは軍事パレードが繰り広げられました。日本のマスコミは、金正恩の党内序列がどうのこうの、異例のパレードの狙いは何なのかと、騒いでいました。

総聯中央の祝賀講演会では、「将軍様と大将さまの導きで、二〇一二年は輝かしい勝利の年になるだろう」と、いつものようなプロパガンダでした。もうヘドも出ないおもいです。

九月十四日、メディアは、たつた八メートルほどの木造船で、三人の子供を含む九人の脱北者が能登に着いたと、いつせいに

## 第10報 脱北問題と人権問題に 目をつむる総聯を許すな！

総聯の改革と祖国統一・志向会 関西地方本部

二〇一一年十月十七日

の要望書の中で、「民族教育は、学生たちを民族主義意識と国際性、日本社会で生きていける力を持ち、祖国の統一と民族の繁栄、同胞社会の発展のために献身する愛国愛族人材に育成すべきだ」と、提唱しています。

在日子弟の「学ぶ権利」を守り、国際的に認められる眞の民族教育を同胞の手に取り戻すためには、ウリ学校を金正日の手から切り離し、同胞自らの自主的な教育に変えなくてはなりません。先ずは、金一族の歴史に捏造された「現代朝鮮革命史」

報道しました。八日に清津（漁大津）を出た小船は、ピョンヤンのパレードの進行中、海上を南へ向かって進んでいたことになります。

この人たちの生死をかけた脱北は、何を意味するのでしょうか。

多くの同胞は、かたずをのむおもいでテレビに見入り、肉親を清津におくる同胞は、もしやとのおもいで画面に釘づけになつたといいます。

今まだ、このような惨状から眼をそらし、「社会主義—地上の樂園」を信ずる総聯の幹部がいるとすれば、そんな幹部たちの思考形態を疑うばかりです。

このままだと、子どもたちの三分の一が、餓死するか栄養失調

#### 餓死、または栄養失調になる

共和国での食糧難は深刻なものです。三代目・金正恩が登場して一年が経過しました。しかし、生存権を侵害された人びとの米ビツは空いたままです。

周知のように、配給はピヨンヤンの人には一日五〇〇グラム、地方では二〇〇グラムのだと言います。しかし、地方ではもうとつくに配給はなくなっています。

国連世界食糧計画（WFP）は、二〇余国のアジアの食糧不足国中、共和国がいちばん深刻で、全人口の四分の一にあたる六〇〇万人が飢えていると指摘しています。成人は一日、一八〇〇～二一〇〇カロリーが必要ですが、その半分も摂取できず、慢性的な食糧難に陥っているのです。

將軍様の中国やロシアへの頻繁な食糧のおねだり。また、外

数年前から軍隊でも食べるものがなく、軍人の強盗、略奪は日常茶飯事だと言います。

日帝時代、日本の警官が村にやつてくると、人びとは戸を閉めたといいます。いま、共和国では人民軍が通ると「強盗がやつてくる」と言って、カギをかけるとのことです。ところで最近は、あまりにもひどい食糧難のため脱走兵が増えているばかりか、栄養失調で倒れる兵士が続出しています。先日、MBSが放映した画面で、ガリガリに痩せ細った兵士の姿を見たときは唖然としました。

將軍様や金正恩・大将は、一粒ずつ選別した米のメシと、世界の山海珍味を食べてマルマルと肥り、二〇余ヶ所もある豪華な別荘で贅沢三昧だと言うのに、子供たちは瘦せ細り餓死していく、これが隠せない共和国の実像です。

ある日本の大学教授がテレビで、「これでは駄目です。金正日独裁政権の崩壊は、もう時間の問題でしよう」と、コメントしていました。なぜか胸にのくる言葉です。

総聯は、どうして北朝鮮の

#### 人権問題に眼をつむるのか！

私たちが総聯で教えられたパターンで考えると、共和国に脱北などの事実はないことになります。脱北なんか起こらないことがあります。

「アメリカと内外反動の捏造した話であつて、飢餓も、ニセドル、麻薬、拉致、ましてや人権蹂躪や政治犯収容所など、あるわけがない」と、言うことになります。しかし、おもしろいことに、金封建王国にはこれら全部があります。

国からの援助を引き出そうとする試図も、ほとんど思つたようには進みませんでした。

アメリカ等の外国から、時に入つてくる援助食糧も末端の人びとに届きません。幹部や軍がナルチギ（横取り）してしまふからです。悪徳幹部たちは、このコメを市場に出してひと儲けするわけです。こんなひどい話がどこにありますか！

このままだと、子供たちの三分の一が、餓死するか栄養失調になると言われています。

わが国では、「しあわせとは、わが子がご飯を食べている姿を見る時だ」と、言われています。それこそが親にとつてのこの上ない幸せなんです。だのに、共和国の子をもつ親はどうでしょうか？ ひもじさのあまり、「オンマ腹がへつたよ」と泣きじやくるわが子に、「この水でも飲みな」と、水だけしか与えられないオモニたちの流す、血の涙を思つと胸がはり裂けます。

テレビに映しだされた、見る影もなく瘦せ細つた子供たちの姿、さまようコツチエピたち、学校にも行けない子供たち。それでも登校してくる子供たちの弁当を、腹をすかした先生たちがつまみ食いしなくては、教壇に立つ力もないと言つのだから、言葉がありません。

このような惨状、いや生き地獄をつくりだした張本人は、いつたいどこの誰でしょうか！

「そんなことに、いちいち驚いていられるかね。これがパルチャ（運命）というものさ」という、イルクン（総聯の活動家）一編集部注たちにときどき出会うことがあります。なんといふことでしょう。

脱北者は後をたちません。考へても見てください。脱北する人が次々と出始めた時期、あのズダン号が日本に着いたとき、私たち活動家は、同胞の質問や疑問に、「わが国は、偉大な主席さまが領導される国です。そんなこと絶対にありません。これは全部敵の策動です」と、答えていたではありませんか。でも、こんどの脱北船のことを否定するイルクンは一人もいません。豆満江と鴨緑江を越えて、そしてこの度の脱北者の事実までも、よもや「嘘」だとは言えないからです。

脱北者は一〇年前に比べ一〇倍に増え、いま、南にいる脱北者は一二、〇〇〇名を超えてます。今年の上半期には一五〇〇名を突破し、年内には三〇〇〇名を超えるだろうと言われます。日本には、二〇〇〇人の人が戻つてきています。

朝高時代の親友同士だった二人の人の話です。一人は北にかかり、その後、中国を経由して日本に脱北してきました。ある日二人は、電車のなかでばつたりと出会いました。二人は「これは夢ではないか？」と、固く抱き合いました。「苦労したんだね」といたわる友に、「金日成と総聯に騙されたんだ」と、脱北した友は言いはなつたそうです。

肉親や親族縁者、友人、知人の帰國者を持たない在日同胞がどこにいるでしようか。やがて私たちの身近に、多くの脱北者が存在する時代が必ずやつてきます。しかし総聯は、いまもつて脱北問題と共和国の人権問題には、知らず存ぜずの「だんまり戦法」を決め込んでいます。それとも、触れられたくない問題だからでしょうか。はたまた、帰国者を送つた罪に恐れをなしてのことでしょうか！

この卑劣な行為は絶対に許すことができません。

総聯は、その綱領のなかで民族的権利の擁護と國際法で公認される合法的権利の保障をうたっています。だのに、自分の都合のよい「人権」だけを語り、要求します。総聯はいつから、このような團体になり果ててしまったのでしょうか！　帰國者の人権、祖國人民の人権は、どうなるが関係ないとでもいうのでしょうか！

エジプトに続きリビアの独裁も倒れました。逃亡中のカダフィが「教導所」で数千人を虐殺した現場が発見されたと外信は伝えています、独裁者はどこの誰でもいっしょでしようが、アウシュヴィツツを凌駕する「収容所群島」が、いまの共和国なのです。

政治犯収容所には、二〇万多名もの人びとが押し込められ。即決処刑はもとより、公開処刑の数は、金正恩が出て来てのこの一年間に、二〇一〇年の三倍に跳ね上がっています。連座制が敷かれ、人びとは「完全監視」の巨大な監獄のなかで喘いでいます。脱北後に中国で捕まり強制送還された女性たちは、墮胎・嬰兒殺害の拷問を受ける地獄絵の世界が展開されています。

極寒の収容所で、千丈の地下炭鉱で、そして闇市場の片隅で名もなく殺され死んでいく人びとが、わが子であり、家族であり、同胞であつて、どこの誰でもありません、

だというのに、いまなお一部の総聯幹部たちは、この現実から眼をそむけています、わが子や肉親、親族、そして友人、知人を政治犯収容所で殺された人を持たない、総聯の古い活動家は一人もいないはずです。

あのトンム（同志）や友人が、全部民族反逆者であり、スペイチだつたと言うのですか！　とんでもありません。私たちは、

同志愛と友情を紙クズのように捨ててしまつた、血も涙もない人間になり下がつてしまつたのでしょうか？　それともマインドコントロールされ、正と悪の判断がつかなくなつているのでしょうか！

イルクンのみなさん！

脱北は、たんなる脱出ではありません。それは、北の地に自由と生命の回復を願う人びとの果敢なたかいで。そして、民主化されるその日は必ずやつて来ます。五〇万の人びとが脱北する日、その日は金独裁王国の崩壊のはじまりです。

同胞はいつも賢明です。三代目後継の公式化、続いての脱北船、すると朝鮮籍を捨てる同胞が増えているといいます。ある

人は、家族とともに領事館に行つたところ、窓口には韓国籍に変更する多くの人が列をなしていたと、話していました。

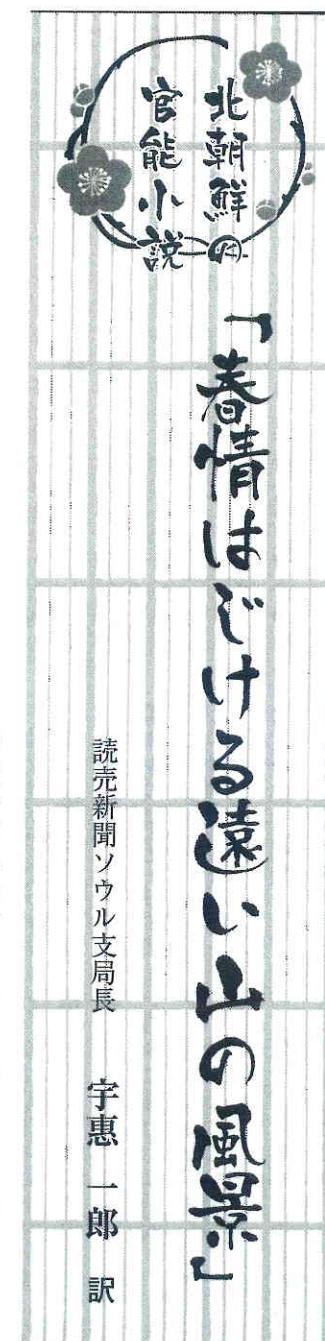
私たちも、それでも一時は社会主義を信じ、みなが幸せに暮らす人民の国を建てようと、妻子を犠牲にして一心不乱に活動してきた「同志たち」です。

どうか、初心に戻り現実を直視してください。同胞の本当の願い、南北同胞の渴望する統一とは何なのかを考えてみてください。総聯はどう生まれ変わらなくてはならないのかを、いま一度真摯に考えなおしてください。おのずから結論と方向が見いだせるのではないか？

政治犯収容所を取り払い、北の地に人権を回復するためにも、

わが総聯は、許宗萬現執行部を退陣させ、金正日政権から決別

しなくてはなりません。



昔の歌謡集にある歌の一節である。

その遠山に弁当片手に朝一番に出かける口実は、そこに行けば柴も多く、山菜も多いとのことである。

言うなれば、それは口実で本心は別のところにあるのを知り尽くしている、青春時代を昔の思い出として遠山を記憶する村のお年寄りたちは、三々五々村から遠ざかつてゆく若者たちを意味あり氣な笑いで見送ると言つ…。

稻妻のように仕事を終え  
愛の歌に調和する：